

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

Autumn 2022

OCT.-DEC.

121

特集

クラシック・コンサート・

セレクション

～和太鼓から若手演奏家の室内楽まで

クラシック音楽を
味わいつくす!!!



特集

03

クラシック音楽を 味わいつくす!!!

特集

クラシック・コンサート・セレクション
～和太鼓から若手演奏家の室内楽まで

08

any 通信

- ◎アーティストボイス 小島日和 (詩人)
- ◎お先に試写しました 「映画はアリスから始まった」(監督:パメラ・B・グリーン)
- ◎読書の窓 佐々涼子『エンジェルフライト 国際霊柩送還士』
- ◎映画と 『杜人ガイドブック』(「杜人～環境再生医 矢野智徳の挑戦」パンフレット)
- ◎any music すっつと真夜中でいいのに。「雲丹と栗」

ピックアップイベント

10

山口情報芸術センター

ローレン・リー・マッカーシー+カイル・マクドナルド 新作パフォーマンス
「アンラーニング・ランゲージ」YCAMとのコラボレーション
完全なマシンと不完全な私たち

パフォーミングアーツ・セレクション in Yamaguchi

振付の未来をリードする巨匠と舞踊家たちによる共演

中原中也記念館

企画展Ⅱ 中也、この一篇——「一つのメルヘン」
中也が描く秋の夜の幻想

山口市民会館

わくわく寄席
芸術の秋! 寄席文化を体験しよう

東京芸術座「12人の怒れる男たち」

本当に裁かれるべきものは…

13

波乱万丈、愉快痛快、毒舌炸裂
泉ピン子の朗読劇

14

イベントカレンダー 10～12月

INFORMATION

Classic Concert Selection



© Sakae Oguma



© KING RECORD

2



© Masaharu Eguchi

山口市民会館では、秋から冬にかけて、クラシックファンはもとより、子どもやクラシック音楽になじみのない方でも楽しむことができるコンサートが3公演行われます。

国内トップクラスの演奏家と世界の和太鼓奏者によるコラボレーション、オーケストラ・キヤラバンによる派遣で実現した豪華オーケストラ・コンサート、さらに今季新しく始まるオリジナルの企画シリーズ第1弾のトリオ・コンサートなど、いずれも世界をまたにかけて活躍するトッププレイヤーが山口に集結します!

様々な音楽を味わいに、ぜひお出かけください。

特集 クラシック・コンサート・セレクション

和太鼓から若手演奏家の室内楽まで

クラシック音楽を 味わいつくす!!!

特別な コラボレーション



林英哲 (太鼓)

© Sakae Oguma

元氣やまぐち創造プロジェクト 「管弦楽アンサンブルと和太鼓のコラボレーション」

2022年11月4日(金) 18:30開演 (30分前開場) 山口市民会館 大ホール

[チケット情報]発売中

[料金]全席指定 前売 一般 3,000円 / any 会員 2,700円 / 学生 (25歳以下) 1,500円 ※未就学児入場不可

[曲目]ベートーヴェン:ピアノソナタ第23番「熱情」/メンデルスゾーン:弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op.20 / ラヴェル:ボレロ〜インプロヴィゼーション / 松下 功:「飛天遊」

[出演]林英哲(太鼓)、田村 響(ピアノ)、長原幸太(ヴァイオリン)、田中雅弘(チェロ) ほか

Classic Concert Selection

1

和太鼓との 異色の組み合わせが実現

山口県防府市出身の音楽家であり、元・東京都交響楽団の首席チェロ奏者・田中雅弘の声かけにより集まった、国内トップクラスの演奏家が山口県内各地を巡り、様々なコンサートを展開する音楽企画が昨年引き続き今年も開催されます。コロナ禍により、停滞した地域の芸術活動を音楽で盛り上げようと、文化庁の助成による「アートキャラバン事業」の一環として企画されたもので、昨年は、チェロとピアノ、金管5重奏という組み合わせで、山口市内の中学校へのアウトリーチコンサートを実施。翌日の山口市民会館でのコンサートにも多くの子どもたちが来場し、楽しむ姿が見られました。今年さらには斬新な発想で、ほかではなかなか味わえない和太鼓とのコラボレーションを企画。豪華ゲストとして、太鼓奏者の林英哲が出演します。日本が世界に誇る太鼓奏者として唯一無二の存在である彼が生み出す和太鼓の響きが、管弦楽やピアノの音色とどのような化学反

応を起すのか、魅惑の共演に胸が高鳴ります。

即興演奏に、ベルリン・フィルとの共演で話題を集めた代表作まで

前半は、ロン・ティボー国際コンクールにおいて弱冠20歳で優勝し、一躍世界に注目され国内外で活躍を続けるピアニストの田村響と林英哲が、ラヴェル作曲「ボレロ」をベースに即興演奏します。ピアノと和太鼓という組み合わせもさることながら、クラシック界の田村響が今回初の即興に挑みます。初共演でありながらジャンルの異なる2人の即興演奏に期待

しないわけにはいきません。

後半には、林英哲の代表作であり、ベルリン・フィルと共演した野外コンサートで2万人以上の聴衆を圧倒した「飛天遊」(松下功作曲)を披露。様々な大きさや形状の和太鼓を巧みなバチさばきで操り、和太鼓の独奏からアンサンブルとの協奏へ、壮大かつ迫力ある音を作り出しボルテージがどんどん上がる圧巻の演奏は必見です! ほかにも、田村響のピアノ・ソロや、室内楽の魅力がぎゅっと詰まった弦楽八重奏曲など、充実したプログラムとトッププレイヤーによる上質な響きを心ゆくまでご堪能ください。

© Rikimaru Hotta



田中雅弘 (チェロ)

© 武藤 章



田村 響 (ピアノ)

© 読売交響楽団



長原幸太 (ヴァイオリン)



飯森範親 (指揮)

© 三井 神



神尾真由子 (ヴァイオリン)

© Makoto Kamiya

日本センチュリー交響楽団と 指揮者・飯森範親の名タッグ

こちら文化庁の助成によって実現した日本センチュリー交響楽団・特別演奏会。通常よりも半分以下の価格でプロのオーケストラ・コンサートを楽しむことができるという、普段足を運ぶ機会がなかった方にとっても気軽にクラシック音楽を聴ききっかけになるのではないのでしょうか。

日本センチュリー交響楽団は、大阪を拠点に1989年に活動をスタート。30年以上の歴史をもちつつ、新しい時代のオーケストラとして常に発展し続けている楽団です。そんな楽団の首席指揮者を務める飯森範親が本コンサートでもタクトを振るとなれば、そのコンビネーションは間違いなく、楽団の魅力を最大限に引きだし、私たちの耳に届けてくれることでしょう。モーツァルト作曲の歌劇「フィガロの結婚」序曲と、ドヴォルザークの「交響曲第9番(新世界より)」は、どちらも様々なコンサートで世界中の楽団によって演奏されてきた魅力的な名曲たち。飯森の指揮が、極上の音楽の世界へと誘います。

子どもの頃から注目されてきた 神尾真由子が登場

ソリストとして登場するのは、楽団と同じく大阪出身の神尾真由子。4歳からヴァイオリンをはじめ、10歳のころからすでに天才少女と言われていた逸材。さらに2007年の第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びることとなったヴァイオリニストです。ニューヨークタイムズでも「聴くものを魅了する若手演奏家」「輝くばかりの才能」と絶賛されています。

そんな彼女が本コンサートで披露するのは、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲。メンデルスゾーン、ブラームス、ベートーヴェンのものと並ぶ「4大ヴァイオリン協奏曲」と呼ばれる名曲であり、またチャイコフスキーの作品の中でも傑作のひとつに数えられています。様々な映画やドラマでも使用され、誰もが一度は聴いたことのある曲です。とても華やかでロマンティックかつ聴きごたえたっぷり。とくに最後の独奏ヴァイオリンとオーケストラの掛け合いは必聴! 最後まで飽きることなく楽しむことができます。

Classic Concert Selection

2

豪華布陣による オーケストラ・ コンサート

「日本センチュリー交響楽団 山口市特別演奏会」

2022年11月10日(木) 18:30開演 (1時間前開場)
山口市民会館 大ホール

[チケット情報]発売中

[料金]全席指定 S席 一般 3,000円 / A席 一般 2,000円 / 学生 各半額

※未就学児入場不可 ※any 会員は一般料金より各500円引(前売のみ)

[曲目]モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」序曲 / チャイコフスキー:「ヴァイオリン協奏曲ニ長調 作品35」/ドヴォルザーク:交響曲第9番 ホ短調 作品95「新世界より」

[出演]飯森範親(指揮)、神尾真由子(ヴァイオリン)、日本センチュリー交響楽団(管弦楽)



© Masaharu Eguchi

観
聴
み
の
！
ビ
ン
の
！
な
た
！
ユ
ニ
タ
！

◎ AI石若さんの叩くリズムと生石若さんのリズムが全く一緒のリズムにならないのが不思議でした。(「Echoes for unknown egos ー発現しあう響きたち」より)
◎ ありがとう。ひめとあそべたよ。ひめ、おうじさまとおどってね。(3歳 to R mansion 「にんぎょひめ」より)
◎ アート鑑賞はどうしても「わかった状態になること」をゴールにしてしまいがちですが、そうではないことを知ることができて良かったです。(「私もアートがわからない vol.2」より)



photo: 谷 康弘

本格クラシックを 気軽に楽しむ 新シリーズ、始まる！

Classic Concert Selection

3

辻本 玲 インタビュー

この冬、新しく始まる本格クラシックの新シリーズ「DYNAMIC 賢者の音」。まさに今、世界が注目し始めたばかりの、これぞ“賢者”だと唸らせる若手演奏家を選びすぎり、トークを交えた温もりあるステージで、若手ならではのエネルギーのほとばしる鮮烈な“生”の演奏をお届けします。その初回ゲストであるNHK交響楽団首席チェロ奏者の辻本玲さんにお話を伺いました。

チェロとの出会いを教えてください。

父親の仕事の関係で、生後4カ月から11歳まで米・フィラデルフィアに。6歳からピアノを、7歳からチェロを始めました。カーティス音楽院の発表会を聴きに行ったのがきっかけです。当時既に姉がヴァイオリンをやっていたので、おそらく違う楽器をということで、両親から「チェロをやるか?」と言われ、やることに。特に子どものころ影響を受けた演奏家はヨーヨー・マです。当時、アメリカのテレビの生放送で、フィラデルフィア管弦楽団とシューマンのチェロ協奏曲を弾いているのを見ることがあり、それがめちゃくちゃ上手くて。彼自身すごく楽しそうに演奏するんですが、演奏中カメラにウインクする姿に、「かっこいいな」と。

オーケでの経験によって、ソロの時の引き出しが増えていくように感じています。

一昨年、NHK交響楽団首席奏者に就任。一方で、ソロ演奏やアンサンブルも継続されています。それらの活動とオーケストラとの違いはありますか?

音楽の最大の表現になったのがオーケストラだと思います。カルテットはその骨格。ソロは同じ音楽でも全然違う。自分の立ち振る舞いやパーソナルな動きも出てきます。学生の頃は、基本的にピアノとチェロでしか弾いていなかったのですが、オーケで演奏することで、管楽器やこれまで

一緒に弾いたことのない楽器とも共演することになります。すると楽器の特色や、作曲家はなぜその楽器をそこに使ったのかとか考えるようになりました。自分がチェロ・ソナタを弾くときは、編成はチェロとピアノだけど、もしオーケストレーションするならこの部分はこの楽器だよね、みたいなことを考えるようになってきて。オーケでの経験によって、自分のソロの時のカラーや引き出しが増えていくように感じています。

辻本さんがご使用の楽器は、どんな個性や特徴がありますか?

1730年製のアントニオ・ストラディヴァリウスを使用しています。どちらかというと、ソプラノ寄りのチェロで、高音がかなり特徴的で、華やかな音色がします。最初の頃、借りて1ヶ月後にコンチェルトを弾いたら、母に「全然聴こえへんね」と言われ、「これほんまに名器かな?」って思っていました(笑)。もちろんいい楽器なのはわかるけど、最初からその楽器がもつ100%の音色が出せるわけではなくて、試行錯誤、色々弾き方を変えながら、時間をかけて特徴をつかんできた感じです。この度の公演も、ぜひストラディヴァリウスの音色とともに楽しんでください。

辻本 玲 TSUJIMOTO Rei

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業。その後、フィンランド、スイスに留学。第72回日本音楽コンクール第2位および「聴衆賞」受賞。2007年度青山音楽賞新人賞受賞。09年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)、11年にサントリーホール他5大都市でデビュー・リサイタルを開催。13年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。ソロ活動と並行して、サイトウ・キネン・オーケストラほか、室内楽にも多数参加。19年にソロCD『オペラヴィジョン』をリリースし「レコード芸術」誌にて特選盤に選出。現在、NHK交響楽団首席チェロ奏者。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターより「Tourte」を、特別に貸与されている。



© KING RECORD

「DYNAMIC 賢者の音 I」

2023年1月22日(日) 14:00開演 (30分前開場) 山口市民会館 大ホール

[チケット情報] any会員先行 11月5日(土)~ / 一般発売 11月12日(土)~

[料金] 全席指定 前売 一般 3,000円 / any会員 2,500円 / 高校生以下 1,000円 ほか ※未就学児入場不可

[曲目] パッパ:無伴奏チェロ組曲第1番より / フランク:チェロ・ソナタ / プラームス:クラリネット三重奏曲(ヴァイオリン版) ほか

[出演] 辻本 玲(チェロ)、津田裕也(ピアノ)、鈴木康浩(ヴァイオリン)

前半はチェロ・リサイタル、後半はトリオという贅沢な二部構成

今回の演奏曲について、どんなところが魅力でしょうか?

前半には、フランクのチェロ・ソナタを演奏します。フランクは近代フランスの作曲家で、水彩画のように色彩がとても豊か。この曲はヴァイオリンの他に、フルートやヴァイオリンなど、色んな楽器で弾かれますが、チェロにも合う曲。チェロの魅力が存分に発揮されるし、演奏会のレパートリーとしても、とてもメジャーな作品です。飽きるころがない曲で、左手が指板の上を駆け巡ったりと、視覚的にもおもしろいと思います。後半の目玉は、プラームスのクラリネット・トリオ(ヴァイオリン版)。この編曲はプラームス自身によるもので、当時は出版と同時に編曲版が出されることは珍しくなかったようです。クラリネットだと、それぞれ楽器が全く違う(クラリネット・チェロ・ピアノ)ので、3者という感じになりますが、ヴァイオリンと同じ弦楽器なので、より調和がとりやすくなります。前半のフランクとは雰囲気ガラッと変わり、プラームスは骨格がしっかりしています。第1楽章は、チェロが最初に一人で力強く出て



王子ホール / photo: 横田敦史

鈴木康浩 (ヴァイオリン)



© Christine Fiedler

津田裕也 (ピアノ)

くるのだけど、どこか不安な気配で、それを乗り越えていく様がおもしろい。第2楽章はとても綺麗で、第3楽章は民族風というか、色んな動物が出てきそうな牧歌的な感じがあります。ぜひフランクとの和声、色彩の違いを感じて味わってもらえたらと思います。

今回の共演者について教えてください。

ヴァイオリン奏者のやすさん(鈴木康浩)は「ヴァイオリンといえば、やすさん」という存在です。演奏ももちろんめちゃ上手だけど、知識が誰よりも豊富な方で、いつも一緒に弾かせていただいてとても勉強になります。共演する機会も多いですが、今回のプラームスはやったことがない曲で、だからこそどうしても一緒にやりたかった。「こうじゃないとだめ」という人って結構いま

すが、彼の柔軟さは素晴らしくて、本当に一緒に弾いていて楽しい方です。ピアノの津田裕也君は、大学の1年先輩で、数々の賞も受賞され、早くから注目を集めていた方。毎年8月に長野で行われる木曾音楽祭に、ここ数年僕も一緒に参加させていただいていますが、その前夜祭で、彼が体育館で弾いたメンデルズゾーンは、本当に感動ものでした。「音楽の神髄」といえるような演奏で、それを聴いて、「絶対彼と弾きたい」と思いました。共演するのは学生以来、十何年ぶりです。やすさんはめちゃ情熱的な方で、津田君は秘めたる情熱を持っている方…それぞれ個性があって、めちゃ楽しい演奏会になると思います! 今回この演奏会のために特別に構成したメンバーとプログラムです。ぜひ期待しててください。

「み聴観
ビんいた
ユなた!
」の!

◎非常に充実の内容で、わざわざ来てよかったです。(『鑑賞ナビゲーターキャンプ2022』より)
◎「本当に海を泳いでいる!!」と感じました!! (40代女性 to R mansion [にんぎょひめ]より)
◎多くの人の対話型鑑賞体験後のコメントにハッと気づかされるが多かったです。(『私もアートがわからないvol.2』より)
◎何故私が彼らを楽しんでいるか考えるきっかけになりました。(20代女性 特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」より)

「み聴観
ビんいた
ユなた!
」の!

◎「わからない」ことは始まりのだと感じる事ができました。(『私もアートがわからないvol.2』より)
◎幼少期を知ることで中也のことをより身近に感じました。(50代女性 企画展I「中也の住んだ町——幼少期」より)
◎とても見応えのあるおもしろい内容でした。この後、もう1周してお気に入りの詩をみてみたいと思います。(20代女性 特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」より)
◎徐々に言葉少なくなっていく中で紡がれる物語が、かえて多くの感情を引き出してきて気持ちのいい空間でした。(to R mansion [にんぎょひめ]より)

any通信

アーティストから聞いたこぼれ話、
映画や本の情報など、
旬のお便りを詰め込んで、
あなたのもとへお届けします。



安吾と中かが結んだご縁



対談の様子 / 左:坂口安吾・右:三浦末雄

8月6日、中原中也記念館特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」の関連イベント「公開対談 三浦末雄×坂口安吾」が、山口市菜香亭で開催されました。三浦さんは、ミヅマアートギャラリーのエグゼクティブ・ディレクターとして、美術界で幅広く活躍されています。坂口さんは、作家・坂口安吾の長男で、写真家、エッセイストです。対談は五十数年前、坂口さんが高校受験の際、家庭教師の三浦さんから中原中也の詩を覚えても

らった、というご縁により企画されました。ヒグラシの鳴き声がかすかに聞こえる中、対談は終始なごやかな雰囲気で行われました。話は、三浦さんの独特な(?)家庭教師ぶりや、三浦家と坂口家の2代にわたるご縁、安吾の妻であり坂口さんの母である三千代さんの思い出など多岐にわたり、来場者はお二人の軽妙なお話を楽しみました。

ストリートピアノで自由に演奏を楽しんで!

誰でも自由に弾くことができる「ストリートピアノ」がこの度、山口市市民会館のエントランスホールに設置され、7月20日にお披露目コンサートが行われました。弾き初めを務めたのは山口市出身のピアニスト、手嶋紗織さん。チャイコフスキーの「くるみ割り人形」、ショパンの「ノクターン」、ムソルグスキーの「展覧会の絵」、キエフの大門」などが披露され、



お披露目コンサートの様子

その美しい音色と、ときに大胆な響きで聴衆を魅了。大きな拍手に包まれコンサートは終了しました。その後、市内中学校の生徒さんがショパンの曲を堂々と披露し、会場を沸かせました。ストリートピアノは、開館日の9時から17時まで利用可能。ただし、大・小・展示ホールの使用時は使えませんので、「利用してみたい!」という方は山口市市民会館のホームページをチェックしてみてください!

<http://yamaguchi-civichall.com/>

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

小島日和 (詩人)

2021年、詩集『水際』(七月堂)で第26回中原中也賞を受賞された小島日和さん。毎年、中原中也の故郷である山口市湯田温泉で授賞式が行われていたが、コロナ禍により、日程も会場も変更され、最終的に東京での開催に。1年越しに訪れることとなった山口では、足湯カフェなどあちこち散策され、様々な出会いがあったようです。

一年遅れで訪問した山口

私が中原中也賞をいただいた2021年は、コロナによる授賞式の延期が続き、最終的に前例のない東京での開催となった。今回、2022年の授賞式にお招きいただいて山口を訪れた。幼い頃に一度、家族旅行で来たことがあるはずだったが、記憶はぼんやりしていた。空港から乗ったタクシーで運転手の方におすすめの場所を尋ねると、「瑠璃光寺ですかね」と答えが返ってきた。今年の受賞者である國松絵梨さんとお会いしたのは、「空の下の朗読会」の会場だった。同い年で、同じように大学

の授業で詩を書きはじめたということもあり、すぐに意気投合した。その日は温泉にも入らず、夜更けまでホテルの部屋で國松さんと詩の話をして、また翌日も会おうと約束して眠った。家族で山口に来たときのことをはつきりと思い出したのは、翌朝、瑠璃光寺の参道から香山墓地に踏み入ったときだった。松の木が日差しを遮り、見覚えのある石段に陰を落としていた。誰もいない墓地を歩きながら、幼い記憶や、昨夜の会話、朗読会で聞いた中也の詩がぐるぐる頭をめぐった。



小島日和 KOJIMA Hiyyori

1997年、東京生まれ、福岡育ち。2019年、早稲田大学の授業で詩を書き始める。在学中から大学横断型の詩誌「インカレポエトリ」に参加する。2020年、インカレポエトリ叢書として詩集『水際』(七月堂)を刊行。同詩集で第26回中原中也賞を受賞。



©2018 Be Natural LLC All Rights Reserved

お先に
試写し
ました

「映画はアリスから始まった」

(2018年/アメリカ/103分/カラー・モノクロ)
[監督]パメラ・B・グリーン

映画の生みの親と言えば、ご存知リュミエール。1895年、パリでリュミエール兄弟が発明した「シネマトグラフ」で撮影された映画「工場の出口」が世界で初めて上映されました。工場から人々が出てくるだけの映像ですが、初めて動く写真＝活動写真(映画)を観た人々は驚き、感動しました。一方で、その映画を「退屈だ」と感じ、誰よりも早く脚本を書き、撮影した人物がいました。劇映画の生みの親であるアリス・ギイです。彼女は多くの映画製作の技法も開発しましたが、なぜ知られていません。本作はその謎と彼女の功績を紐解いていきます。望んだわけではないのに消えゆく存在。本人の意思とは別に歴史が

刻まれる様が描かれます。月日とともに姿形が消えても記憶に残る人やもの。記憶から消えても記録から新たに見出される存在もあります。歴史を記録に残すことへの責任の重さを感じました。映画の母アリス・ギイ監督へ感謝の意を込めて、スクリーンに投影したいと思います。

前原美織(YCAMシネマスタッフ)

2022年11月9日(水)～20日(日)

※上映開始時間等はお問い合わせください。

会場:山口情報芸術センター スタジオC

[料金]一般 1,300円

any会員・25歳以下・特別割引 800円

【あらすじ】クローズアップ、特殊効果、音の同期など、現在も使われる映画製作技法を次々と生み出し、1,000作品以上を手掛けた監督・製作・脚本家、アリス・ギイ。リュミエール兄弟やメリエスと並ぶパイオニアであり、ハリウッドの映画製作システムの原型を作り上げた世界初の女性監督は、なぜ映画史から忘れ去られたのか? 膨大なインタビューと緻密なリサーチによって彼女の功績とその生涯をめぐる謎が明らかになる。



『エンジェルフライト 国際霊柩送還士』

佐々涼子 著
2012年 / 集英社

人はいつどこで死を迎えるかわからない。遺体と向き合うことさえできず、ただ待ち続けなければいけない遺族のために、国境を越えて遺体を故国に送り届ける「国際霊柩送還士」という仕事がある。彼らは「一目だけでも最後に会いたい」と願う遺族に寄り添い、複雑な手続きはもちろん生前のその人を思い起こせるように遺体の傷を隠し、化粧で整え、身体を綺麗に拭いて、遺族がきちんと悲しめるように心を砕く。あまり知られていない「国際霊柩送還士」という仕事に迫り、「人の死」とはどういうことなのかを改めて考えさせてくれるノンフィクションの作品です。淡々としているながらも、ノンフィクションならではの迫力は圧巻の一言。世界の解像度が変わる一冊として、読んでみてはいかがでしょうか。

梅林真理(山口市立中央図書館 職員)

映画

と



杜人ガイドブック

(「杜人〜環境再生医 矢野智徳の挑戦」パンフレット)
(2022年/日本/101分/監督:前田節子)

ワイカムシネマで今年7月と9月に上映された映画「杜人〜環境再生医 矢野智徳の挑戦」は、造園家であり、環境再生医という肩書を持つ矢野智徳さんを3年間撮り続けたドキュメンタリー映画。「杜」とはかつて「この場所を傷めず、穢さず、大事にしてください」と紐を張った場を指していました。ところが1970年代以降、人間の土地利用は、大地を窒息させる方向へと突き進み、現代の様々な天災へとつながっています。パンフレットは、監督自らが雑誌編集者の経験を活かして編集、デザインは娘さんが担当して制作。映画に出てくる用語の解説、杜人の技の紹介、専門家や活動への賛同者によるエッセイなど、地球環境を考えていくための実用的で読み応えのある内容になっています。

any music

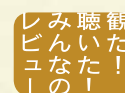


1st MINI ALBUM「正しい偽りの起床」収録

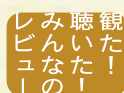
ずっと真夜中でいいのに。
「雲丹と栗」

YCAM音響スタッフがこの季節にぴったりの音楽をご紹介します。今回は「秋の夜長に聴きたい曲」をテーマに、選りすぐりました。まさにうつつの名前をもつ音楽ユニット「ずっと真夜中でいいのに。」から1曲をご紹介します。その名も「雲丹と栗」。これまで、秋にぴったりなタイトル。秋の季節の風物詩を歌詞に取り入れ、それらの語感を活かしながら言葉によるリズム感を出し、そこにさらに独自性のあるメロディが加わった魅惑的な楽曲。ボーカルACAね(あかね)のか細くも芯のある特徴的な声が耳に残ります。一度ご視聴あれ。

中上淳二(YCAM音響スタッフ)



●坂口安吾さんの愛蔵品が観覧できて良かったです。鉛筆削りは、とても小さくてびっくりしました。(60代男性 特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」より)
●ホワイエでのパフォーマンスがより「共鳴」しているのが感じられて感動しました。(40代女性 「Echoes for unknown egos 一発現しあう響きたち」より)
●ここ数年ライブハウスやコンサートに行けていなかったのが、音に包まれる感覚を久々に思い出しました。(30代女性 「YCAM音響映画祭2022」より)
●自分の知っている人物も出てきて、さらに興味をそえられるような内容だった。(10代女性 テーマ展示「中也の本棚——日本文学篇」より)



●2日間のライブで、アフタートークを聴く前と後で大きく印象が変わり、大変楽しく聴かせていただきました。(40代女性 「Echoes for unknown egos 一発現しあう響きたち」より)
●服のなびく音、床を踏みしめる音が聞こえるのがまさに爆音の良さでした。(30代女性 「YCAM音響映画祭2022」より)
●夢の世界を感じられて、とても感動しました。(to R mansion 「にんぎょゆめ」より)

「Echoes for unknown egos
—発現しあう響きたち—」



photo:谷康弘

ドラマー/パーカッショニストの石若駿とYCAMが共同で開発・制作したパフォーマンス・イベントが6月4日と5日に発表されました。AI(人工知能)の研究者でクリエイターでもある野原恵祐と小林篤矢らも交え、約1年半にわたって制作。石若と、石若の演奏パターンを学習した人工知能(AI)とがセッションすることで自分自身と共演する試みを行いました。両日とも満席のお客様に囲まれるなか、4日は石若のソロ、5日は石若とサクソフ奏者・松丸契のデュオによるパフォーマンスを展開。この場で何が起きているのか見逃すまいとする観客の熱い視線が、演奏する石若らに向けられ、途中で会場を移動しながらも最後まで集中力が途切れることなく興奮と感動のなかパフォーマンスは終了しました。

わたしもアートがわからない vol.2
「わからない」から
はじまる
コミュニケーション



photo:谷康弘

様々な背景をもつゲストを講師に迎え、アート作品鑑賞の「コツ」を伝えるシリーズ企画「わたしもアートがわからない」。その第2弾を7月30日に開催し、京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センター所長の福のり子が講師を務めました。福は「アートは作品と作品をみる人の間に起こるキャッチボールのようなものだ」と力説。参加者も、実際に「対話型鑑賞」を体験。いくつか作品の画像を見た後に自分の意見を述べ、お互いに異なる意見に耳を傾けるワークを行いました。対話を重ねて知を作り上げることは、想像力や主体性を醸成し、これからの社会を生きる力にもなる、そんな可能性を感じる時間となりました。

山口情報芸術センター (YCAM)

https://www.ycam.jp/

ローレン・リー・マッカーシー + カイル・マクドナルド 新作パフォーマンス

「アンラーニング・ランゲージ」YCAMとのコラボレーション

2022年11月12日(土)～2023年1月29日(日)

上演時間: 〈土日祝日〉10:30～18:00 (30分毎の入替制) ※最終回17:30～

〈平日〉12:30～／13:30～／14:30～

会場:スタジオB

完全なマシンと不完全な私たち

ロサンゼルスを拠点に活躍するアーティスト、ローレン・リー・マッカーシーとカイル・マクドナルドによる新作パフォーマンス「アンラーニング・ランゲージ」。本作は、「AIにはない人間の資質とは?」というテーマを探求する観客体験型パフォーマンス作品です。観客が作品に足を踏み入ると、AIによってある実験への参加を促されます。語りかけてくるAIに応える形で、観客同士がコミュニケーションをとりながらミッションをこなしていくことに。しかし、AIが観客の表情、言葉、身体の動きを検出してしまふと、観客が上手くコミュニケーションをとれないように妨害を始めます。やり取りを続けるために、例えば、拍手やハミング、話す速度や音程、普段使わない動作など、AIに認識されないコミュニケー



ローレン・リー・マッカーシー
photo:Gabriel Noguez

カイル・マクドナルド

ションの方法を他の観客とともに見つけ出さなければなりません。あなたならどうしますか? ぜひ体験しにお越しください。

わたしはココに注目する!

予めプログラムされたアルゴリズムで休むことなく忠実に完璧に実行するAIと比べ、私たちには物理的な制約があり、記憶も曖昧。しかしその不完全さは、環境に合わせて柔軟に自己を革新できる余白として捉えることもできます。完全なマシン(AI)と不完全な私たち(人間)。本作の体験を通して、何が見えてくるのか…。

料金 | 当日券のみ 一般 500円 / any会員・25歳以下・障がい者及び同行の介護者1名 無料
※10歳以上が対象 ※一部日程は事前予約

パフォーミングアーツ・セレクション in Yamaguchi

2022年12月11日(日) 14:00開演

会場:スタジオA

振付の未来をリードする巨匠と舞踊家たちによる共演

クラシックバレエやモダンバレエを基礎に学び、世界随一の振付家、演出家らの革新的な身体表現のメソッドを受け継いできた、酒井はな、中村恵恵、安藤洋子。2020～21年にかけてDance Base Yokohamaで創作され、愛知県芸術劇場にて初演を迎えた「ダンスの系譜学」を通じて、それぞれのキャリアに影響を与えた巨匠振付家らのオリジナル作品を軸に、振付の原点が今日に至るまで「継承」され「再構築」を繰り返してきた歴史を、3人が各2作品の計6つのショーケー



酒井はな「瀕死の白鳥 その死の真相」
©Naoshi HATORI 提供:愛知県芸術劇場

スを通して紐解いていきます。時代も地域も民族も越えて、絶えず更新されるダンスの歴史的一幕にお立会いください。

わたしはココに注目する!

クラシックバレエのスタイルを確信したミハイル・フォーキンに酒井はなが、モダンダンスとバレエを融合させたイリ・キリアンには中村恵恵が、バレエの様式美を脱して新しい身体理論を確立したウィリアム・フォーサイスに安藤洋子が、それぞれ対峙します。

チケット情報 | 10月1日(土)～

料金 | 全席自由 前売 一般 3,000円 / any会員・特別割引 2,500円 / 25歳以下 1,500円 / 高校生以下 500円

- 特に記載のない場合、any会員割引は1会員4枚まで。
- 特別割引:シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

中原中也記念館

https://www.chuyakan.jp/

企画展II

中也、この一篇——「一つのメルヘン」

2022年10月5日(水)～2023年4月16日(日)

中也が描く秋の夜の幻想

秋の夜は、はるかの彼方に、
小石ばかりの、河原があつて、
それに陽は、さらさらと
さらさらと射してゐるのであります。
——「一つのメルヘン」より



中原中也「在り日の歌」と吉敷川の石

中也の代表作をじっくりと味わう企画展「中也、この一篇」シリーズの第4弾。今回は「一つのメルヘン」を紹介し、この作品は雑誌「文芸汎論」1936年11月号に発表され、のちに中也の第二詩集『在り日の歌』に収録されました。国語の教科書にも多数掲載され、中也の代表作として人気の高い詩の一つです。

入館料 | 一般 330円(275円) / 大学生 220円(165円)

※あわせてテーマ展示もご覧いただけます。 ※18歳以下、70歳以上無料 ※()内は20人以上の団体料金

わたしはココに注目する!

詩に登場する〈小石ばかりの、河原〉とは、中也が眠る中原家のお墓の近くを流れる吉敷川(通称・水無川)が、イメージの源泉になったといわれています。幻想的な詩の世界と山口の風景との接点についても探ります。

検定 中也



小林秀雄の筆による詩の一部が刻まれた「掃蕩」詩碑(井上公園)

Q 中原中也の最も親しい友人、人の一人であった文芸評論家の小林秀雄は、中也の生前からその詩を高く評価して批評を書き、文芸誌への掲載や、詩集『山羊の歌』の出版を後押しした他、没後もその作品が広く読まれることに貢献しました。その小林が中也の詩「一つのメルヘン」を評した言葉は次のうちどれでしょう。

- 1 最も美しい遺品
- 2 抒情の深さの見本
- 3 歌ふ言葉ばかりで出来てゐる様な詩

答えは14ページ

中也を味わおう

冬の夜の夜

冬の黒い夜をこめて
どしやぶりの雨が降つてゐた。
——夕明下^{ゆふあかりか}に投げいだされた、萎れ^{しせ}大根^{だいこん}の陰^{かげ}ささ、
あれはまだしも結構だった——
今や黒い冬の夜をこめ
どしやぶりの雨が降つてゐる。
亡き乙女達の声さへがして
ae ao, ae ao, éo, aeo éo —
その雨の中を漂ひながら
いつだか消えてなくなつた、あの乳白^{のちやうち}の脬^{ぼうし}たち……
今や黒い冬の夜をこめ
どしやぶりの雨が降つてゐて、
わが母上の帯締^{おびぢり}めも
雨水^{あま}に流れ、潰れてしまひ、
人の情け^{なさけ}のかずかずも
竟^{ついに}に密柑^{みかん}の色のみだつた? ……

【解説コメント】

中原中也記念館「屋外展示」の今年度のテーマは「天気の子」。今回ご紹介している「冬の夜の夜」を含む3篇が11月から登場します。本作は、雑誌「白痴群」第5号に、「暗い天候三つ」という3部構成の詩の第一節として発表された後、独立した一篇として「冬の夜の夜」と題し、第一詩集『山羊の歌』に収録されました。詩全体を覆う〈どしやぶりの雨〉は、陰惨で激しく、詩人の内面とも呼応しているようです。そこに、乳白の〈脬囊〉や、〈亡き乙女達の声〉、〈母上の帯締め〉といった独特のイメージが浮かび上がり、不思議な雰囲気醸し出しています。なお、作中に登場する、〈ae ao, ae ao, éo, aeo éo!〉という特徴的な擬音語は、フランス詩の影響があるとされています。

観覧 聴いた ユニタ! の!

- ◎にんぎょひめが泡になる表現がとてもきれいで素敵でした。(10代女性 to R mansion 「にんぎょひめ」より)
- ◎参加した価値のある学びの多いイベントでした。(「私もアートがわからないvol.2」より)
- ◎水と油的に合わない2人を取り上げられ、驚きとともに心琴を打ちました。(70代男性 特別企画展「坂口安吾と中原中也——風と空と」)
- ◎椅子の持ち手を握りしめ、地面を踏みしめ、振動を感じて楽しかったです。(50代女性 YCAM爆音映画祭2022)より)

mini PICK UP!

小椋佳ファイナル・コンサート・ツアー「余生、もういいかい」
2022年12月4日(日)
17:00開演(16:15開場)
会場:山口市民会館 大ホール



シンガーソングライター・歌手として活躍する小椋佳。銀行員と歌手活動を両立しながら、他のアーティストへの楽曲提供も数多く手がけ、「愛燦燦」「夢芝居」など数々の名曲を世に送り出してきたその多彩な経歴は、みなさんもご存知の通りでしょう。1stアルバム「青春～砂漠の少年～」を発表して50年。歌手活動最後となるコンサートツアー! 第2の人生「余生」を生きてきた小椋佳の幕引きの時が近づく。

[チケット情報] 発売中
[料金] 全席指定
前売 一般 8,000円
any会員 7,500円

mini PICK UP!

楽まつり
2022年12月16日(金)
18:30開演
会場:山口市民会館 大ホール



民俗芸能で構成した舞台を各地で上演する芸能集団「田楽座」が山口にお目見え。日本各地のお祭りや伝統行事に伝わる祭囃子、獅子舞、神楽や盆踊り、太鼓などなど、ふるさとの芸能に脈々と流れる強さと明るさをお届けします。おなじみのソーラン節から獅子舞、民謡や田楽座オリジナルの楽曲も交えて盛りだくさん。全国津々浦々、こんな芸能があったのか!と旅行気分でも楽しむよし、お祭り気分でも楽しむよし。迫力の演奏をご堪能ください!

[チケット情報] 10月29日(土)~
[料金] 全席自由
前売 一般 3,500円 ほか
※3歳以上有料

PICK UP EVENT! AUTUMN 2022
ピックアップイベント

山口市民会館

http://www.yamaguchi-civichall.com/

わくわく寄席

2022年11月6日(日) 14:00開演
会場:小ホール

芸術の秋!
寄席文化を体験しよう

この秋、バラエティー豊かな寄席芸の数々が山口市民会館にやってくる! 開口一番に落語家・三遊亭美よし、続いて“明るく陽気に行きましょう♪”が合言葉のウクレレ漫談師・びろき、前半の締めくくりには、ここ山口市を拠点に第一線で活躍する講談師・神田京子が登場します。後半は、ベテランの技が光る紙切りの林家今丸、盛り上がりも最高潮、トリを飾るのは若手有望株の落語家・雷門小助六。生音でのお囃子も見どころの一つです。江戸から続く本場の寄席の雰囲気をつぶり味わうことができますよ。落語ファンも初めての方も、ご家族、ご友人と、もちろんお一人でも全員まとめて大歓迎。会場と一緒に賑やかな笑いに包まれましょう!!



上段左より: 神田京子(講談)、雷門小助六(落語)
林家今丸(紙切り)、びろき(ウクレレ漫談)

わたしはココに注目する!

山口ではめったにお目にかかれない色んな芸人さんたちが入れ替わり立ち替わりで登場します。お目当ての芸人さん以外にもお気に入りの芸人さんとの出会いを楽しんでください。

チケット情報 発売中

料金 全席自由 前売 一般 3,000円 / any会員 2,500円 / 25歳以下 1,500円

東京芸術座「12人の怒れる男たち」

2022年11月20日(日) 14:00開演
会場:大ホール

本当に裁かれるべきものは…

1950年代末のニューヨーク。とある殺人事件の裁判が結審を迎えようとしている。被告はスラムに暮らす18歳の少年で、被害者はその父親である。12人の陪審員の手に少年の運命は委ねられた。被告の有罪は確実かと思われたが、予備投票の結果は有罪11票・無罪1票。たった1人、無罪に投票した陪審員8号が提示した、ある「合理的な疑い」により、完璧と思われた事実が揺らぎ始める…。陪審員裁判という、集団での話し合いの現場そのものを描いたこの戯曲は、私たちに「先入観や偏見にとらわれていないか」「その場の空気感」で結論を出



していないか」という、つい目を背けがちな問いを投げかけます。本当に裁かれるべきものは何か、誰か? 白熱の議論から目が離せません!

わたしはココに注目する!

他の意見に耳を貸さない者、正直で純朴な者、自己主張できない者…。性格や年齢も十人十色の男たち。きっと「自分と似ているな」とか「こういう時あるある!」と、共感できる人物がいるはず。一緒に議論に参加しているつもりでください!

チケット情報 発売中

料金 全席自由 前売 一般 3,500円 / any会員 3,000円 / 25歳以下 2,500円

- 特に記載のない場合、any会員割引は1会員4枚まで。
- いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

村田雄浩

1960年生まれ。東京都出身。80年朝間義隆監督「思えば遠くへ来たもんだ」で映画デビュー。92年に伊丹十三監督「ミソボ」の女中島丈博監督「おこげ」で、日本アカデミー賞ほか数々の映画賞を受賞。その後も映画、テレビ「舞台」で出演多数。



泉ピン子

東京都出身。18歳で歌謡漫談家としてデビュー。1975年より、日本テレビ系ウイークエンダーでレギュラーを務め注目される。以降、バラエティ以外にも数多くのドラマで女優として活躍の場をひたし、代表作にNHK連続テレビ小説「おしん」、TBS系ドラマ「渡る世間は鬼ばかり」などがある。

波乱万丈、愉快痛快、毒舌炸裂
泉ピン子の朗読劇

累計42万部を売り上げた、内館牧子の大ベストセラー小説「すぐ死ぬんだから」が朗読劇として完全舞台化!
主演を務めるのは、名女優・泉ピン子。その相手役に選ばれたのは、テレビドラマでも泉と名コンビを組んできた、村田雄浩。
2人のベテラン俳優が紡ぎだす朗読劇がこの秋、山口で上演される。

主人公、忍ハナの喜怒哀楽を泉ピン子に託す

内館牧子の小説「すぐ死ぬんだから」に登場する主人公、忍ハナは、毒舌で、負けず嫌ひ。好き嫌ひがはっきりとしていて、浮き沈みが激しく、感情を隠さない性格。喜んだり落ち込んだり忙しいが、常に前に向かって突き進む愛すべき人物として描かれている。そんな忍ハナの波瀾万丈、愉快痛快な終活物語が朗読劇として舞台化されることに。「ハナは私たちに笑いと涙、そして勇気を与えてくれる。ハナの人生は演劇そのもの」、そんなふうに語るのは、今回の朗読劇で台本と演出を手掛ける笹部博司。彼は「観終わった人たちが、忍ハナに元気をもらって、劇場を後にする、そんな舞台にしたかった」という。では、忍ハナは誰が演じる? 「ハナの人生を誰に託せばいいのだろうかと考えたときに、はっきりと一人の女優が見えて来た」。それが泉ピン子だった。「彼女なら、痛快に忍ハナの人生を生きてくれるだろう。忍ハナの喜怒哀楽を彼女に託したい」。そうして誕生したのが、本作、泉ピン子の「すぐ死ぬんだから」である。

女優人生の集大成にしたい

本作への出演の話が届いたとき、泉は原作を「あまりにおもしろくて数時間で一気に読んでしまった」と語る。ただおもしろいだけではなく、「まるで、原作者・内館牧子が自分の生活を覗いて書いたのでは?」と思うくらい、忍ハナの人生と泉ピン子の生き様が重なるように感じたとも。だからこそ、泉は「この役は私にしかできない、そして女優人生の集大成にしたい」と、自身にとって初の挑戦となる朗読劇に強い思いをもって臨む。そんな泉が自らの相手役に指名したのは、「渡る世間は鬼ばかり」など共演の多い村田雄浩。「話を聞いて、作品がピン子さんとカチッと合った。これはおもしろくないわけがない」と参加を決意。村田が演じるのは、主人公・忍ハナの夫・岩造。ほかにも泉とともに、すべての登場人物を舞台上で演じ分ける。名コンビ、泉ピン子×村田雄浩による息ぴったりな掛け合いに注目したい。また、劇中の音楽を、クラシック、舞台音楽、「マツケンサンバIII」など、変幻自在の作曲家・宮川彬良が担う。宮川が創り出す音楽が場面を引き立て、舞台を一層盛り上げてくれることだろう。

「あらずし」78歳の忍ハナは、60代までは身の回りをかまわなかった。だがある日、実年齢より上に見られて目が覚める。「人は中身より外見を磨かねば」と。仲のいい夫と経営してきた酒屋は息子夫婦に譲っているが、夫が倒れたことから、思いがけない裏を知ることになる。

朗読劇 泉ピン子の「すぐ死ぬんだから」
2022年11月27日(日) 15:00開演(14:30開場)
会場:山口情報芸術センター スタジオA

[チケット情報] 発売中 [料金] 全席指定 ※未就学児入場不可
前売 一般 5,000円 / any会員・特別割引 4,500円 / 25歳以下 2,500円 / 高校生以下 1,500円
当日 一律 5,500円 ※any会員は1会員4枚まで(当日券は割引対象外)
[原作] 内館牧子(講談社文庫) [台本・演出] 笹部博司 [作曲] 宮川彬良 [出演] 泉ピン子、村田雄浩

10

October

11

November

12

December

※掲載内容は2022年9月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

会場	開催中	10月	11月	12月
山口情報芸術センター (YCAM) https://www.ycam.jp/ ※年末年始のお休み12/29~1/3	<p>開催中</p> <p>Yamaguchi Seasonal [water state1][Forest Symphony] 会場:山口駅前サテライトA、常栄寺雪舟庭</p>			<p>25</p> <p>~2023 / 1 / 29</p>
山口市民会館 http://www.yamaguchi-civichall.com/ ※年末年始のお休み12/29~1/3		<p>6</p> <p>ミュージカル「夜の女たち」</p>	<p>3</p> <p>松元ヒロ・ソノライブ 2022</p> <p>4</p> <p>管弦楽アンサンブルと和太鼓のコラボレーション (本誌p.3~7参照)</p> <p>6</p> <p>わくわく寄席 (本誌p.12参照)</p> <p>10</p> <p>日本センチュリー交響楽団 山口市特別演奏会 (本誌p.3~7参照)</p>	<p>12</p> <p>ローレン・リー・マッカーシー + カイル・マクドナルド 新作パフォーマンス 「アンラーニング・ランゲージ」 (本誌p.10参照)</p> <p>20</p> <p>和楽器バンド</p> <p>27</p> <p>朗読劇 泉ピン子の「すぐ死ぬんだから」 (本誌p.13参照)</p> <p>4</p> <p>東京芸術座「12人の怒れる男たち」 (本誌p.12参照)</p> <p>11</p> <p>パフォーミングアーツ・セレクション in Yamaguchi (本誌p.10参照)</p> <p>4</p> <p>小椋佳ファイナル・コンサート・ツアー (本誌p.12参照)</p> <p>16</p> <p>楽まつり (本誌p.12参照)</p>
中原中也記念館 https://www.chuyakan.jp/ ※年末年始のお休み12/29~1/3	<p>5</p> <p>第19回テーマ展示 中也の本棚——日本文学篇</p> <p>5</p> <p>企画展II 中也、この一篇——「一つのメルヘン」(本誌p.11参照)</p>		<p>26</p> <p>萩原朔太郎と中原中也 一萩原朔太郎大全2022(仮)</p> <p>28</p> <p>中原中也を読む会</p>	<p>27</p> <p>25</p> <p>中原中也を読む会</p> <p>23</p> <p>中原中也を読む会 会場:吉敷地域交流センター</p> <p>~2023 / 2 / 12</p> <p>~2023 / 4 / 16</p>

[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (24時間受付)

https://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり)

TEL. 083-920-6111

窓口

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネットでチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口

※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6カ月)以上

[料金] 1人につき700円、
2人目以降は1人につき500円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分200円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで (山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

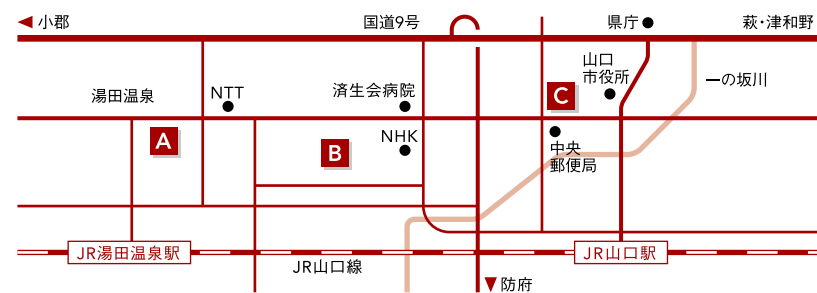
※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人

山口市文化振興財団

Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
https://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

【新型コロナウイルス感染症対策について】

発熱など風邪の症状のあるお客様は、ご入場をご遠慮ください。ご鑑賞前に消毒液のご利用やこまめな手洗いをお願いします。ご来場の際はマスクの着用をお願いします。場内は可能な限り換気を行います。万が一感染者が発生した場合は、お客様の個人情報を公的機関に提供する場合がございます。あらかじめご了承ください。今後の情勢により、公演の開催が変更または中止になる場合がございます。

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
[休館日] 月曜(祝日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
https://www.chuyakan.jp/

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日
https://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

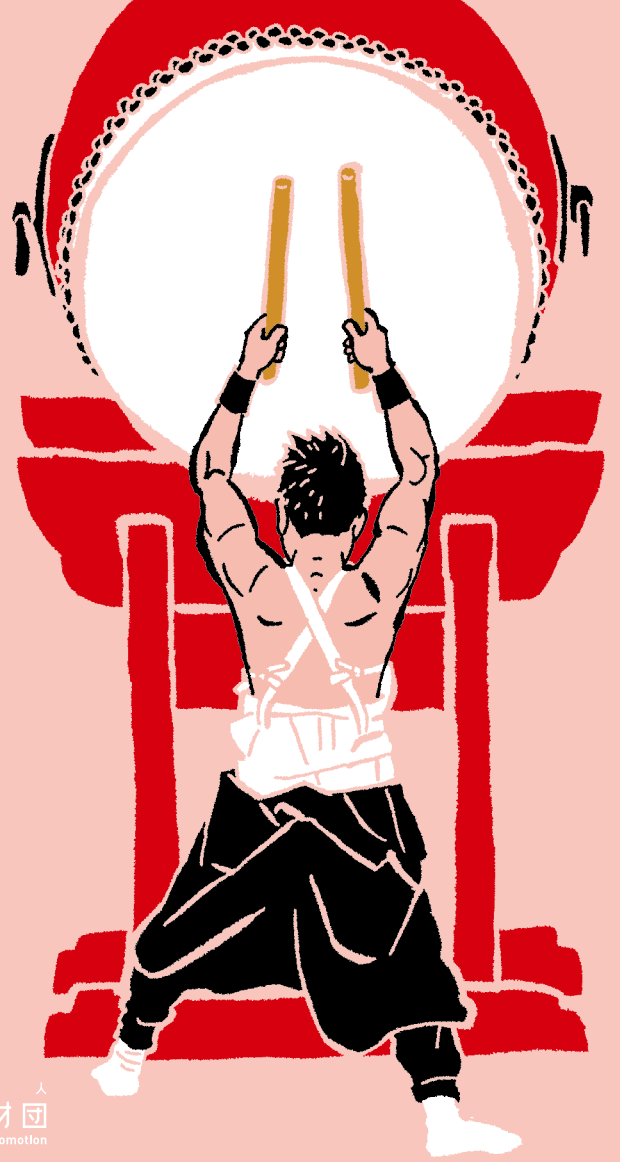
C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
http://www.yamaguchi-civichall.com/

今夏はイベントが実施できたけど、忙しくて色々やり残したことも…。気がつけば西瓜を一度も口にしないまま、梨やぶどうが回る時期に。[M.D] 悲喜こもごも渦巻く浅草演芸ホールを定点観察したNHK「ドキュメント72時間」に心温まりました。ぜひ11月の「わくわく寄席」で寄席体験を! [KA] 2年ぶりにイベント満載だったこの8月。バタバタとしていましたが、楽しみに来てくださるお客様をお迎えするのはやっぱり嬉しいですね! [YI]



A. ■ 最も美しい遺品
(エッセイ「中原中也の思ひ出」から。■は「六月の雨」、■は「碑」を小林かづみ氏の言葉です。)



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

